



第97号  
 公益財団法人新潟教育会  
 (新潟教育会館内)  
 代表理事 高橋 恒彦  
 〒951-8104  
 新潟市中央区西大畑町590番地3  
 TEL/FAX 025-222-2971  
 URL <http://kyouikukai.jp>  
 E-mail 事務局 jim@kyouikukai.jp  
 研究所 kenkyujo@kyouikukai.jp  
 休館日 月曜日

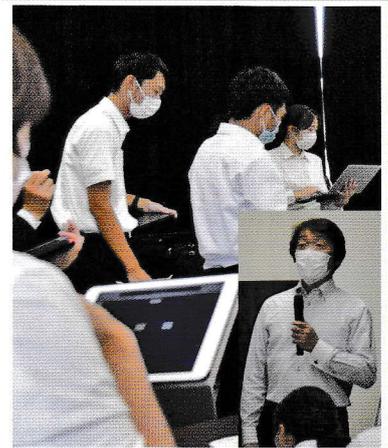
## 上半期の主な事業



### 教師力アップ講座

7月25日(日)  
新潟教育会館

- |   |   |
|---|---|
| <p><b>第1講座</b><br/>         特別な支援が必要な子がいる<br/>         学級経営・学習指導 その2<br/>         ～ULDの考え方を取り入れて～<br/>         講師<br/>         加茂市立加茂西小学校 校長<br/>         古田島 恵津子 様</p> | <p><b>第2講座</b><br/>         ICT教育に求められていること<br/>         ～情報活用能力の育成の<br/>         実現に向けて～<br/>         講師<br/>         新潟大学 教職支援センター<br/>         特任教授<br/>         高橋 恒彦 様</p> |
|---|---|



### 夏季大学講座

7月31日(土)  
長岡リリックホール

**演題**  
 ココにいるから見たこと  
  
 きき酒マイスター  
 尾畑酒造専務取締役  
 尾畑 留美子 様



### 教育相談研修会

8月5日(木)  
ゆいぽーと(新潟市)

**オリエンテーション + 実習**  
 指導者  
 実行委員長  
 関川村立関川中学校  
 校長 村山 敬介 様  
 ほか 実行委員 11人

### 「私にはできる」という思いを 子どもたちに

村上市立村上南小学校

教諭 小野理恵  
(研究主任)

「子どもの視点」この講座を受講して心に強く響いた言葉でした。古田島先生のお話の全てが、子どもと関わる私たちが常に考えていかなければいけないことでした。

人の行動には原理があると初めて知りました。子どもが何で困っているのかを知り、行動の前後の条件づけを適切にする。それが、子どもが自己調整の力をつけることにつながります。「どう教えるか」から「どうしたら子どもが学ぶか」と発想を転換し、子どもの視点から学習方法・評価を変えていくことも、これからの教育に必要なことだと分かりました。令和の日本型学校教育の構築を目指し、個に応じた指導内容や指導方法の工夫に、これまで以上に取り組んでいく必要性を感じました。

「UDLガイドライン」を紹介していただきました。必ず手元に置きたい資料です。ここからもヒントを得ながら、「子どもの視点」をもてるように、教師力をアップさせていきたいと思っています。

### 世界と共に動き出そう

新潟市立五十嵐小学校

校長 諸橋 智

OECD Education 2030 を基調とした高橋先生のお話からは、多くの御示唆をいただきました。世界の教育が大きな枠組みで協働的に動き出していることやGIGAスクール構想が、現学習指導要領に基づく「変革の引き金」であることなど、より具体的に認識することができました。

また、ロイロノートの演習中には、先生から「学ぶ目的」が重要な点は変わらない」とのお言葉をいただきました。この意味するところは、私たち教師が子どもと共に学習者としてエージェンシーを発揮すること。そして、明確な目的に向け、課題を協働解決すること。さらに、これらを通して「MICA」な世界を生き抜く人を育てることにはかならないと捉え直すことができました。

一緒に受講した学生の瞳の奥には、未来志向の輝きがありました。新たな世界観に向け動き出した瞳に、頼もしさを感じるひとときともなりました。

### パートナーシップで 目標を達成するために

長岡市立黒条小学校

教諭 栗山しのぶ

SDGsが目指す2030年はすぐそこまで来ています。どの目標も、生活につながったり、そこから気付き、何ができるかを考えたりすることが学びとなっていくと思います。

尾畑さんは「⑯パートナーシップで目標を達成しよう」を推進し、「人と人」「人と地域」をつなぐコーディネートを、魅力的に発信していました。私もUターンして新潟に戻り、教員として子どもたちと実践していく中で、尾畑さんの「ココにいたから見えたこと」に大変共感しました。

新潟県には、それぞれの地域に「宝」があります。その宝を生かし、あらゆる世代の人をつなぎ、その交流によって生み出される化学反応から、発想が変わり、アクションが変わり、未来が変わっていく…。教員として、この「つなぐ役目」を魅力的に創造できると感じました。真野鶴さんの酒造り体験から学び、私も学校で「つなぐ役割」を果たしていきたいです。

### 社会の中で 誰かの役に立つと信じる力

見附市立今町小学校

教諭 安原雄貴

講演をお聞きして、尾畑氏には、酒蔵の経営者という姿とともに、地域おこしを行う企業人、環境とビジネスを両立させる環境プランナーという印象をもった。地域とつながる会社経営の中で、人と人、人と地域、環境と企業の接点を大切にされてきたとのことだ。その活動の根底に、「社会の中で誰かの役に立つと信じる力」という考えがあると感じた。

私たち教員は、3～5年で勤務校のある地域での行動を振り返り、地域に愛着を感じ、少しでも根ざすことができたのかと省みた。

「地域を醸し接続すること」尾畑氏は、講演の中でこの言葉を繰り返して使われた。その言葉を繰り返すたびに、「地域で学び、地域でつながり、未来を創る教育」を目指し、先輩や同僚が行ってきた活動と重ねた。

講演を聞き終え、「社会の中で誰かの役に立つと信じる力」を根底にして、これからの教育活動を、今、考え始めている。

## 教師力アップ講座

7月25日

## 夏季大学講座

7月31日

専業

参

育

育



# 教育相談研修講座

8月5日

# 特別支援教育助成

10月9日

## 「聴く」ということ

加茂市立葵中学校  
教諭 松田 涼  
(特別支援学級担任)

教職2年目に入り、生徒や保護者との信頼関係づくりについて悩んでいたところ、先輩教員から本研修にお誘いいただき、参加しました。

研修では、グループ実習が中心に行われ、自らが話し手と聴き手を体験する中で、多くの気づきを得たり、学びを深めたりすることができました。中でも「答えは相手も持っている」という言葉が印象に残っています。これは、相談者の悩みを解決する答えは初めから相談者自身の中にある、その答えに近づくための手助けをすることがカウンセラーの役割であるという考え方です。その役割を果たすために、まずは丁寧に相手の話に耳を傾けることが大切です。その中で、相手が何を求めているのかを見極めながら、相槌や要約、質問などを加えていくことによって、相手自身が考えを整理していくことが大切なのだと感じました。

本研修で得た学びを活用し、自身の教育相談のスキルを高めていきたいです。学び多い研修でした。

## 「教育相談研修会」に参加して

新潟市立西特別支援学校  
養護教諭 平 直子

出産や育児でしばらく仕事から離れていた間に、相談活動からもすっかり距離を置いてしまったという思いがあった。日常会話でも、子育てでも、相手の話をじっくり聴けなかつたなあ……と、とにかく反省の日々。自分に余裕がないと尚更で、そんな折、こちらの研修を知り、飛びついたのでした。

研修は、実習(体験研修)重視の内容で、終えてみると、傾聴についてとことん学んだ！考えた！という充足感と心地よい疲労感があった。感じ方は人それぞれ。抱える事情も様々。相手をわかりきることができないからこそ、「傾聴」する。共感的理解とは何か、話し手が話しやすい状況はどのようにしてつくられるのか……「その答えは話し手も持っている」という指導者の話が印象的だった。(傾聴って奥が深いなあ)と、この研修会にリピーターが多いというのも納得。研修を終えた今、私は、まず、ゆったり無構えで聴けるようになりたいと思っている。

## 子どもたちの自己実現を目指して

妙高市立新井小学校  
校長 江口 克也

この度は、新潟教育会特別支援教育助成の対象校に選定いただき、誠にありがとうございます。拙い実践ではありますが、日々の努力が認められましたこと、職員一同喜んでおります。

妙高市は、特別支援教育に手厚く、当校には、知的障害学級、自閉症・情緒障害学級が合わせて11、加えて言語障害通級指導教室、発達障害通級指導教室が1つずつあります。それぞれの学級・教室では、児童一人ひとりの自己有用感を高め、自己実現、社会参加を目指し、環境づくりを行い試行錯誤しながら日々指導にあたっています。子どもたちの笑顔が一番のエネルギーとなっています。

また、特別支援教育コーディネーターを中心に、自校に加え近隣の園の保護者を対象とした子育て広場を開催するなど、保護者の悩みに寄り添うとともに積極的に情報発信を行っています。このことにより、児童・保護者の特別支援教育への理解は、進んできています。

## 子どもの笑顔とともに

村上市立村上小学校  
教諭 荒井 晶子  
(言語障害通級指導教室担当)

この度は、令和3年度特別支援教育助成校に選定していただき、大変ありがとうございます。

当校では、昭和48年に言語障害学級が開設されました。現在は、言語通級2教室、発達通級1教室が設置されています。担当の3人に加え、OJT教諭が配置された恵まれた環境で、日々子どもたちのことを話題にして、指導のアイデアを出し合ったり教材を交換したりしています。複数教室設置の利点を実感しています。言語難聴の指導に長く携わらせていただき、出会った一人一人の子どもたちからたくさん学びを学ばせてもらってききました。それぞれのニーズはみな異なっています。その中で、その子の良さと成長をたくさん感じられることが大きな喜びになっています。子どもと保護者の笑顔も指導のエネルギーです。

「楽しかったね。また来週。」と笑顔で指導を終えることができるようにしていきたいと思っています。

### 特別支援教育 助成校決定!

9月28日(火)に令和3年度特別支援教育助成校選考委員会を開催し、助成の候補校を理事会に推薦しました。その後、10月9日(土)の理事会の承認を経て、今年度の助成校が決定しました。

### 令和3年度 特別支援教育助成校

- 妙高市立新井小学校
  - 魚沼市立小出小学校
  - 村上市立村上小学校
  - 新潟市立上山小学校
  - 長岡市立東中学校
  - 新潟市立松浜中学校
- 小学校4校・中学校2校

11月26日(金)に新潟教育会館にて、助成金授与式を開催し、各校の代表者に、賞状ならびに助成金を授与しました。

なお、各校の優れた取組については、当会報の3月号に掲載する予定です。ぜひ、各助成校の取組をご覧いただき、特別支援教育への理解を深めていただきたいと思います。

### 新潟教育美術展 『紙上发表集』完成!

素敵な『紙上发表集』が  
できました!



教美展実行委員長  
『発表集』編集委員長  
日 諸 博美

コロナ禍と県民会館改修工事に伴い、令和2&3年度は、展覧会の開催ができないことになりました。2年連続の事業中止は大きな衝撃で、何か代わりになる取組はないものかと検討を重ねた結果、『紙上发表集』の作成となりました。



第24回 新潟教育会 美術展  
令和4年11月22日(火)  
~23日(月)  
新潟県民会館にて開催予定!

### 来年は、新潟教育会 設立50周年 公益財団法人移行10周年

財団法人・新潟教育会は、昭和47年4月1日に、新潟県教育委員会から設立の認可を受けました。その40年後の平成24年6月1日に、公益財団法人への移行の認定を受けました。そして、来年が、財団法人設立50年目、公益財団法人への移行10年目の年となります。

この節目の年を迎えるにあたり、新潟県の教育発展のために当会を設立し、運営してこられた先達の皆様、当会を支え続けてくださった諸機関、当会の活動に積極的に参加してくださった皆様に感謝すると共に、新たな活動の方向を共有するため、令和4年7月30日(土)に記念事業を予定しております。

そこに向け、実行委員会を立ち上げ、9月7日に第1回実行委員会を開催しました。そして、12月14日に第2回を開催します。

第1回実行委員会で決定したことの概略についてお伝えします。(予定です)

- 期日 令和4年7月30日(土)
- 会場 朱鷺メッセ・マリナーホール
- 内容 記念式典
- 記念講演会  
講師 前文化庁長官  
元東京藝術大学学長  
宮田 亮平様
- パネルディスカッション

第2回実行委員会で決定したことについては、当会報3月号にてお伝えします。

### 会館の利用状況

年度	利用回数	利用人数
R元	172回	2726人
R2	97回	953人
R3	191回	2037人

4月~10月の合計

右表のように、昨年度はコロナ禍により、会館の利用回数が激減しましたが、今年度は大きく回復しました。

感染対策を徹底しての利用やりモートホスト会場としての利用等によるものです。

利用料は無料。電話一本で予約が可能です。少人数での利用も可能です。ぜひご利用ください。

### 【あとかき】

新規コロナ感染者数が減少したことにより、学校生活や社会生活において、感染対策を行った上での諸活動が再開されていると思います。当会事業や会館の利用も一層盛んになるよう期待しているところです。

本号では、上半期の主な事業の様子を巻頭の写真と「事業参加者の声」をお伝えしました。

さらに、最終頁では、特別支援教育助成校決定、『新潟教育美術展 紙上发表集』の完成、当会周年事業のお知らせ等について掲載いたしました。

向寒の時節となります、どうぞご自愛ください。